

第5章

亀岡市の文化財の 保存・活用に 関する現状と課題

第 1 節 文化財調査に関する現状と課題

1 既往の文化財調査の状況

(1) 市史編さん事業による調査

亀岡市では、『新修 亀岡市史』が刊行されており、この編纂を通じて亀岡市にある各種文化財の所在確認調査は比較的進んでいます。

『新修 亀岡市史』資料編第4巻には建造物・美術工芸品（彫刻・絵画・歴史資料・工芸品等）に加えて、民俗行事、伝説、方言、伝統の手仕事など無形民俗文化財まで網羅されているほか、資料編第1巻では、市内所在の主な遺跡の紹介、資料編第5巻では各地域の民俗行事の聞き取り調査、石造物一覧表があり、編纂時に市内所在文化財について所在確認調査がなされたものといえます。

(2) 行政による文化財調査

市史による調査に加えて、亀岡市では、各種文化財について京都府教育委員会等と連携しながら、次のような調査が実施されています。

○有形文化財の調査

建造物では、平成12年（2000）に『京都府の近代化遺産』の、平成21年（2009）には『京都府の近代和風建築』の報告書が刊行され、亀岡市内の明治期以降の主要な建造物の把握が進みました。また平成29年度に京都府で暫定登録文化財の登録制度が新設されたことをうけ、市内の江戸期創建の建造物について市史をもとに所在確認調査が実施されました。

美術工芸品でも京都府暫定登録文化財の新設を機に、彫刻・絵画・古文書・歴史資料・考古資料について、市史をもとにした所在確認調査と詳細調査が進められました。さらに、この成果をもとに美術工芸品の文化財の指定登録、修理事業が飛躍的に進みました。

○民俗文化財の調査

ア 伝統の手仕事

平成5年に京都府文化財保護課により『伝統の手仕事：京都府諸職関係民俗文化財調査報告書』が刊行され、亀岡市内の手仕事の実態把握がなされました。ここで把握された技術者のうち多くは京都府伝統産業優秀技術者として表彰され、現在まで技術が継承されていますが、一部はすでに廃業したものもあります。

イ 祭行事調査

令和元年度より、京都府文化財保護課によって「京都府祭り・行事調査」が実施され、亀岡市内でも無形民俗文化財である祭礼行事・年中行事の実施状況が悉皆的に調査されており、今後も継続的に調査が継続される予定です。

○記念物の調査

ア 名勝の調査

名勝についても、京都府暫定登録文化財の新設を機に、市史掲載の名勝地の確認調査を行い、一部について京都府暫定登録文化財として登録しました。

イ 埋蔵文化財調査

平成10年度（1998年度）より、亀岡市内で農林水産省近畿農政局による国営ほ場整備事業が実施されているのに伴い、市内各所で埋蔵文化財発掘調査が行われてきました。この調査の過程で、川東地域では保津車塚古墳や国分古墳群、池尻遺跡（丹波国府跡候補地）、三日市窯跡（国分寺の瓦窯）が、川西地域では千代川遺跡（丹波国府跡候補地）、佐伯廃寺などの重要遺跡が発見されるなど市内の埋蔵文化財の調査研究が進んでいます。

ウ 城館調査

平成25年（2013）まで、京都府文化財保護課によって京都府内の山城跡・平城跡・城跡を含む城館跡の所在確認調査が実施され、亀岡市内でも約70件の城館跡が把握されました。この成果は『京都府中世城館跡調査報告書 第2巻 丹波編』にまとめられました。

エ 歴史の道調査

令和元年度より京都府文化財保護課によって実施されています。亀岡市を含む丹波地域は令和2年度より調査実施中です。

○文化的景観の調査

平成27年度（2015年度）に、亀岡市教育委員会が『保津川下りの文化的景観保存調査報告書』を刊行しました。ここでは、篠町山本や保津町など保津川下りの船頭として従事する人たちが暮らす集落の文化的景観を中心に、市内の文化的景観と言える地域がピックアップされています。

以上のように亀岡市においては、『新修 亀岡市史』の編纂を軸として、文化財の確認・把握は進んでいるといえます。しかしながら、「表9 亀岡市における指定等文化財の分布状況」からみてとれるように、指定・登録等がなされている文化財は、建造物や美術工芸品、歴史資料に比較的多いっぽう、考古資料や民俗文化財、記念物に少ない傾向にあります。これは亀岡市における文化財調査・指定等が、有形文化財を中心に進められてきたことを示しています。

また、「図28 地区別指定文化財件数」をみると、指定文化財が亀岡地区（旧亀岡町・旧亀山城下町を含む）や千歳町、曾我部町、蔦田野町に多く、吉川町や大井町、西別院町では特に少ないといった状況が生まれています。これは、東別院と西別院の歴史的背景が同様であるのに数に差が生まれてしまっていることなどを考えると、文化財調査・指定等の対象地域に偏りがあったことがうかがえます。

【令和4年3月31日現在】

	有形文化財				民俗文化財		記念物			文化的 景観	伝統的 建造物群	埋蔵 文化財	文化財 環境 保全地区
	建造物	美術工芸品 (絵画・彫刻 ・工芸品)	歴史資料 (典籍・古文書 ・歴史資料)	考古 資料	有形民俗 文化財	無形民俗 文化財	遺跡	名勝地	動物・ 植物・ 地質鉱物				
亀岡地区	○	○	○			○							○
篠町	○	○	○		○								
馬路町			○		○								
千歳町	○	○	○		○	○	○		○				
旭町	○	○											○
河原林町	○	○											
保津町			○										○
曾我部町		○	○					○					○
吉川町													
穂田野町	○		○		○	○		○					○
千代川町	○					○							
大井町						○							
本梅町	○	○						○					
畑野町		○	○					○	○				○
宮前町	○	○	○					○					
東本梅町	○	○	○										
東別院町		○											
西別院町		○				○							

凡例 ○：指定等文化財がある

表 9 亀岡市における指定等文化財の分布状況

【令和4年3月31日現在】

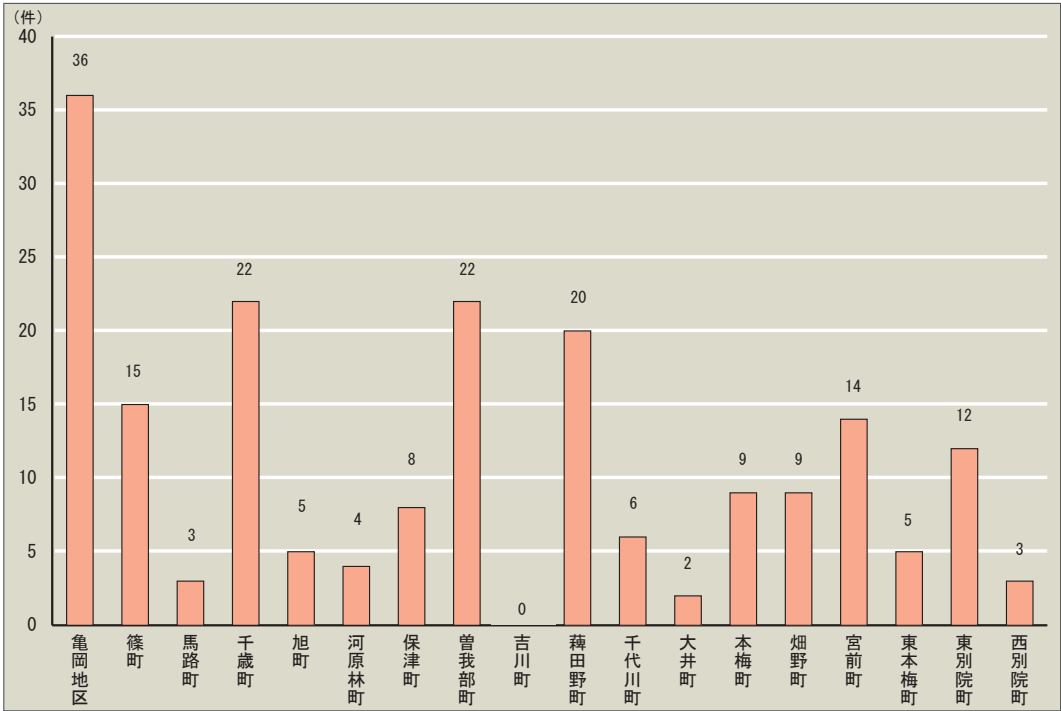


図 2 8 地区別指定文化財件数

2 本計画作成にあたり実施した文化財調査の状況

前項で調査件数の少ない地域や長期間状況未確認だった文化財について、令和2年度から3年度にかけて、大学等の専門機関、地元団体の協力を得て所在確認調査を進めました。

(1) 大学等の専門機関による所在確認調査

建造物や彫刻作品、区有文書の所在確認調査を実施しました。



建造物所在確認調査の様子



美術作品所在確認調査の様子



歴史資料の所在確認調査の様子

①建造物

町家の所在確認調査によって、西別院町の酒井家や千歳町の廣瀬家のような江戸時代以前に遡る民家を確認することができました。今後も調査を実施し、民家も含めた貴重な建造物の所在確認を実施する必要があります。

②美術工芸品

美術工芸品については、今回の所在確認調査によって新たに発見されたものもあり、一部が京都府暫定登録文化財に登録されました。未発見の文化財が一定数あることが予想されるため、今後も継続的な調査が必要です。

③歴史資料

『新修 亀岡市史』編纂の際に調査された亀岡市内の歴史資料には状態の悪化や一部欠失が認められました。今後も既出資料の状態確認を進める必要があります。

(2) 地域住民による調査

今回の所在確認調査を実施するにあたって、現在活動中の地域の住民や団体にも依頼をしました。その結果、文化財の所在確認に加えて、地元の人にしか把握されていなかった文化財を新たに確認することができました。今後も地元団体に依頼することによって、継続的な所在確認調査や新たな文化財の発見等が期待されます。

例 1 あまぶれ史談会

余部町の団体であり、余部町だけでなく周辺の地域の文化財所在確認調査を実施していただき、余部城跡の痕跡を確認しました。

例 2 別院のこれからを考える有志の会

東西別院町の文化財所在確認調査を実施していただき、小野小町が入ったと言い伝えられている石風呂が発見されるなど別院町の文化財の保存・活用を実施していくうえで核になるものが発見されました。

3 文化財調査・研究の課題

こうした文化財の種別・地域別の偏りをふまえて、民俗文化財や記念物の調査を重点的に実施したり、大井町・吉川町・西別院町での調査に重点をおいたりするなど、亀岡市内所在文化財を広範に把握するようにする必要があります。

○今後必要な調査

<文化財種別>

No.	対象文化財	調査内容
1	有形文化財	・『新修 亀岡市史』所載有形文化財の所在確認調査の継続実施 ※とくに以下の調査が不足しており実施する必要があります。 ・工芸品の所在確認・詳細調査 ・典籍の所在確認・詳細調査 ・考古資料の所在確認・詳細調査
2	無形文化財	・京野菜・食文化に関わる所在確認調査
3	民俗文化財	・祭り・行事調査の継続実施 ・伝統の手仕事の状況確認調査
4	記念物	・埋蔵文化財発掘調査の継続実施 ・歴史の道 詳細調査 ・動物・植物・地質鉱物の所在確認・詳細調査
5	文化的景観	・文化的景観の所在確認調査
6	伝統的建造物群	・伝統的建造物群の所在確認・詳細調査

<地域別>

No.	対象地域	調査内容
1	吉川町・大井町・西別院町	文化財所在確認調査・詳細調査の実施
2	川東地域（保津町・千歳町・河原林町・馬路町・旭町）	名勝地所在確認調査
3	宮前町・本梅町・東本梅町・畑野町	東西別院町の民俗文化財の所在確認調査

第2節 地域と文化財の現状

本計画作成にあたり、協議会に参画する関係団体及び市内の各自治会や地域住民（支援団体）にヒアリングを行いました。

本節では、各者からのヒアリング等をもとに亀岡市が把握した現状をまとめます。

※関係団体・地域住民（支援団体）の構成については、第8章第2節を参照。

1 本計画に係る関係団体の現状

協議会に参加する関係団体から文化財に関する現状についてヒアリングを実施した結果、共通して確認されたものは以下のとおりです。

①少子高齢化による担い手の減少

- ・少子高齢化による人口減少を直接の契機とする住民減、若者の人口減によって祭典の実施が難しくなるという声が多く上がりました。

②文化財の老朽化に伴う維持管理の負担増大

- ・民俗行事の継続的实施によって懸装品等や人形などの文化財の老朽化が進んでいますが、この修理や維持管理には大きな費用がかかり、この資金調達が難しいという声がありました。

③地域所在の文化財の未把握

- ・地域にある文化財が把握しきれていないという問題意識があり、この点の把握と掘り起こしが必要という声がありました。

④文化財の基本情報や整備事業などの未把握

- ・文化財の保存・活用を進めるうえで、そもそも地域住民に文化財の存在や価値が知られていないという問題意識が多く聞かれました。

⑤学校教育との連携不足

- ・①④とも関連しますが、地域の文化財を子どもたちに周知を進める方策として、学校教育の場で地域の文化財を紹介すべきであるが、この点がなかなか進められていないという声が聞かれました。

2 亀岡市内各自治会・支援団体の現状

市内において現時点で積極的に活動を進めている地域を中心にヒアリングを実施した結果、共通して確認された現状は以下のとおりです。

A 地域所在の文化財の未把握

- ・ 亀岡市文化財部局が把握していない文化財に加え、一部の住民しか知らない文化財も多く所在していることが分かりました。

B 文化財の基本情報や整備事業などの未把握

- ・ 地域所在の文化財の存在であったり、文化財指定・登録になったりということが地元住民に知られておらず、同様に子どもたちも文化財の存在を把握していない状況があります。
文化財の保存・活用を図る前に、地元において文化財の存在や歴史的価値の周知徹底を図ることが必要であると考えられます。

C 文化財保存の担い手の減少

- ・ 少子高齢化の影響によって、地域における人口減・民俗行事や寺社における祭礼の担い手不足はやはり地域においても大きな課題となっています。

D 学校教育との連携不足

- ・ C とも関連しますが、学校教育の場で地域の文化財を位置づけ、子どもたちに周知徹底を図っていくために、地域において文化財の情報を共有し、教材に活用していく必要がありますが、これが不十分な状況です。

3 亀岡市内の文化財関連施設の現状

亀岡市内には、現在3か所の文化財関連施設があります。

(1) の文化資料館は、亀岡市内の文化財調査研究の拠点として、今後体制や施設の整備を図る必要があります。

(1) 文化資料館

亀岡に残る歴史を縄文時代から昭和時代、亀岡市のあゆみまでの6つのテーマに分けて歴史文化の資料を展示・公開しています。また、亀岡の偉人や貴重な彫刻・絵画などを集めて展示する特別展や企画展も開催しています。

資料の収集に係る収蔵スペースが不足しているほか、調査・研究活動が不十分なため、より積極的に調査・研究を進めていく必要があります。



文化資料館

(2) 天然砥石館

歴史的に価値の高い天然砥石「丹波青砥」の展示や体験会が行われています。

砥石の普及啓発という点では機能していますが、砥石採掘に係る調査・研究や技術の伝承に努めていく必要があります。



天然砥石館

(3) 佐伯灯籠保存会資料館

国指定重要無形民俗文化財である「佐伯灯籠」の普及・啓発のために開館しました。現在では、祭典の日に合わせて館内で人形浄瑠璃が上演されます。

重要文化財である「佐伯灯籠」の調査・研究、普及啓発の拠点として整備していく必要があります。



佐伯灯籠保存会資料館

第3節 文化財の保存・活用に関する課題

本章で示した現状から導き出される課題について、以下のとおり整理します。

大方針「しる」に関する課題

- ①文化財の所在把握調査における地域ごとの偏り（亀岡地区や千歳町、曾我別町、蕨田野町に多く、吉川町や大井町、西別院町で少ない）
- ②文化財の所在把握調査における文化財種類ごとの偏り（建造物や美術工芸品に多く、民俗文化財や記念物で少ない）
- ③地域の文化財の調査成果や整備事業などに関する地域との情報共有の不足

■大方針2「ふかめる」に関する課題

- ①文化財の詳細調査における地域ごとの偏り（亀岡地区や千歳町、曾我別町、蕨田野町に多く、吉川町や大井町、西別院町で少ない）
- ②文化財の詳細調査における文化財種類ごとの偏り（建造物や美術工芸品に多く、民俗文化財や記念物で少ない）
- ③亀岡市文化資料館における調査・研究の不足

■大方針3 「まもる」に関する課題

- ①文化財の老朽化に伴う修理・維持管理費用の増加
- ②既存文化財の状態劣化・滅失危険性の上昇
- ③文化財修理等の費用調達の難化
- ④文化財の防災・防犯の対策

大方針4 「つたえる」に関する課題

- ①学校教育との連携の不足
- ②少子高齢化による担い手の減少、これに伴う後継者育成の不足
- ③亀岡市文化資料館や天然砥石館、佐伯灯籠保存会資料館における普及啓発活動の不足
- ④文化財や文化財情報の公開の不足

大方針5 「いかす」に関する課題

- ①地域と連携した活用事業の不足
- ②活用事業における地域住民の非参画
- ③無形民俗文化財の日常生活への活用の不足